

開催年月日 平成30年1月10日（水）
 質問者 日本共産党 宮川 潤 副委員長
 答 弁 者 水産林務部長 ほか

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 密漁対策について 始めに、密漁対策について伺います。 私は、昨年、檜山管内の現地視察を行い、その際に、ひやま漁協関係者とナマコの密漁問題について、意見交換を行いました。漁業者の方々からは、自ら巡回パトロールを行っているものの、資源保護のために漁獲を控えている小型のナマコまでも密漁されるなど、密漁が漁業経営に深刻な影響を与えているとの意見が出されたところであります。 密漁は、組織的かつ悪質化、巧妙化する傾向にあると伺いました。 道の取締体制、今後の対応策などについて、順次、質問をして参ります。</p> <p>（一）本道の取締体制について 密漁は、いつどこで行われるか予測不能であり、その対策は難しいところがあるものと考えます。 こうした密漁の実態も踏まえ、これまで対策をとってきたものと考えますが、本道における取締体制や、漁業者の方々の取組は、具体的にどのようなものなのか、また、課題をどう認識しているのか、伺います。</p> <p>（二）機械による監視装置の導入について ご答弁でありましたように、漁業者の方も巡回パトロールなどを行っているようですが、24時間365日の監視ということになりますと、大変な負担であります。体制を整えるだけでも容易ではないものと思えます。 青森県では、AIを活用し、少人数で効率的に陸奥湾全体をカバーする密漁監視システムを構築・導入し、組合員の負担を大幅に軽減させたと同っております。 人的な監視体制の整備の限界を考慮しますと、今後の密漁対策において、このような機械による監視装置の導入が非常に有効な対策になり得るものと考えますが、道としてどのような認識を持っておられますか。 また、導入に当たっての課題をどう考えていますか。伺います。</p> <p>（三）今後の密漁対策について 海域が非常に広いので、全道的なAI監視システムの導入は、直ちにできないとしても、特に密漁の多い地域に、監視や機器整備などの対策を重点化するメリハリのきいた取組など、密漁対策を一層強化する必要があるものと考えます。 道として、実効ある対策とするため、今後どう取り組んでいくのか、伺います。</p>	<p>○ 刀禰指導取締担当課長 本道の取締体制などについてであります、本道における密漁事犯は、従来の海水浴や釣りによるレジャー型の密漁に加え、近年、高価なナマコや秋サケを狙った組織的で悪質・巧妙化する密漁が多く見られているところでございます。 このため、道では、メディアなどを活用した密漁防止の啓発を行うとともに、漁業管理課と漁業取締船4隻を中心として、振興局水産課とも連携し、海上保安部や警察、漁業団体と情報の共有を図りながら、合同でパトロールや取締などを実施しております。 また、漁協においては、夜間の監視を警備会社に委託するほか、漁業者による巡回パトロールなどを行っておりますが、漁業の仕事に加えた監視活動は、身体的な負担が大きいものと認識しております。</p> <p>○ 刀禰指導取締担当課長 監視装置の導入についてであります、青森県の漁業団体が、本年度導入した密漁監視システムは、陸奥湾全体に高性能なカメラを15台設置し、その画像から人工知能・AIを活用して不審船などを識別し、関係者に自動で通報するものであります。 道としては、このようなシステムは、監視業務の負担軽減や密漁抑止につながるものと考えているところでございます。 一方、道内では、漁協等が監視用のレーダーやカメラを整備し、不審船を取締機関へ通報するなど、一定の効果が得られており、青森県と同様のシステムを、本道の広い海域に導入するには、導入費や維持管理費が非常に高額となることなどが、課題と考えております。</p> <p>○ 山口水産局長 今後の密漁対策についてであります、現在、道内各地において、水産資源の増大や保護に向け、漁業者自らが、ウニ、ナマコ、秋サケなどの種苗放流や、厳しい漁獲規制に取り組む中、こうした貴重な資源を狙った密漁事犯は、水産資源や漁業経営に大きな影響を与えるものと考えております。 このため、道としては、今後とも、取締機関</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>機器整備支援と、重点的・機動的配備ということですので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>二 道産水産物の付加価値向上の取組について 次に、道産水産物の付加価値向上の取組について、質問を致します。 近年、ホタテ、秋サケ、イカ、サンマなど本道の主要魚種が減少傾向の一方、ブリなどが増えてくるといった魚種の変化も見られ、この変化に遅れず、獲れている魚種を活用する取組を進める必要があると考えます。 昨年訪問いたしました乙部町では、ナマコについて、将来的には輸出を視野に、有名シェフに食材として使ってもらふなど、ブランド化に向けた取組を進めていると伺いました。 このような取組に対する支援も含め、以下、道産水産物のブランド化など付加価値向上に向けた取組について、質問を致します。</p> <p>(一) ナマコの付加価値向上について ナマコは、浜値でも高価で取引されているものと承知しております。 漁業者自ら、加工に取り組み、付加価値を高める取組を行っていますけれども、道としてはどのように評価しているのか伺います。</p> <p>(二) 付加価値向上に向けた今後の取組について 付加価値向上については、振興局と漁協などが連携、協力することで、ブランド化などに向けた地元の取組をしっかり支援していくことが重要と考えます。 道として、今後、どのように進めていくお考えか、伺います。</p>	<p>や漁業団体と緊密に連携し、ナマコや秋サケなどを中心に、全道各地において、合同の夜間パトロールや一斉取り締まりを行うとともに、漁協等が進める監視カメラなどの機器整備に支援するほか、漁業取締船を密漁が多い海域に、重点的・機動的に配備するなど、密漁防止対策に取り組んで参る考えであります。</p> <p>○ 飯田水産支援担当課長 漁業者によるナマコの加工についてであります。北海道産の干しナマコは、中国で高級食材として珍重されておりますが、製造には技術と時間を要するため、現在では、漁獲されたナマコの多くが生のまま出荷され、付加価値の高い干しナマコの加工に漁業者が取り組む事例は少ない状況にあります。 このような中で、ひやま漁協では漁業者が干しナマコの製造に取り組み、品質面で高い評価を受けたことから、先般、シンガポールで開催された「北海道プレミアム食材商談会」に出展するなど、付加価値を高める取組を進めているところであります。 道としては、こうした地域が主体となった取組は、付加価値の向上やブランド化、新たな販路の開拓につながり、漁業所得の向上に寄与するものと考えております。</p> <p>○ 幡宮水産林務部長 付加価値向上の取組についてであります。近年、本道の漁業生産が大きく減少する中、海外で高級食材として流通するナマコのほか、資源が増加傾向にあるイワシやブリなどについて、付加価値向上に取り組むことは、大変重要と考えております。 このため、道では、檜山や後志において、漁業者等が行うナマコの加工や販路開拓の取組のほか、日高のブリや根室のイワシなどについて、市町村や漁協が行う都市部の量販店でのPRや飲食店でのメニュー提供などの取組に支援しているところであります。 道としては、今後もブランド化などに向けた地域独自の取組に対し支援を行うとともに、道総研と連携し、漁獲量が増加している魚種の新たな加工製品や生食用冷凍技術の開発を推進するなど、道産水産物の付加価値向上に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>ただ今部長より、今後のブランド化などに向けた地域独自の取組に対して、支援をしていくという答弁を頂きました。</p> <p>私は、他の部とも連携を強めて地域づくりと合わせた地域独自の取組への支援を検討して頂きたいということを指摘させて頂きたいと思えます。</p> <p>乙部町のナマコについては評価は非常に高いものであります。東京の有名シェフからも評価され、シンガポールにも出展し、ブランド化に進もうとしております。</p> <p>私はそれを、町づくりと合わせて進めていってはどうかと考えるものであります。</p> <p>乙部町には光林荘やバリアフリーホテルあすなるなどのホテルがありますが、そのホテルで宿泊客などにナマコを提供する、それをホテルのホームページでお知らせするなど、経済部と連携して地元水産物を出荷するだけではなくて、地元水産物で観光客を呼び込んで、おみやげも買って頂くと、夏であれば、乙部町であれば元和台海浜公園のバリアフリービーチにも行って頂いて、そうすると観光客の数自体はそれほど多くなくても、小さな町であれば活性化すると、こういう取組ができるのではないかと考えます。</p> <p>他の部とも連携して、地元水産物で町づくりも視野に入れて頂けるように指摘をして質問を終わります。</p>	